

教育課程編成委員会

平成 28 年度第 2 回委員会 議事録

1. 日時および場所

日 時：平成 29 年 2 月 22 日(水) 18:00~20:00

場 所：修成建設専門学校 146 教室

2. 出席者（順不同、敬称略）

山下裕貴、堤下隆司、増田和浩、見邨佳朗、中安哲男、野瀬孝男、中島良明

山本剛、小池裕也、奥和田健、山崎孝一岩野久香、小島章、小松原学、大上哲男

以上 15 名

3. 配布資料

資料 1-1：平成 28 年度第 2 回委員会 議事次第

資料 1-2：平成 28 年度第 2 回委員会 出欠予定一覧表

資料 1-3：平成 28 年度第 1 回委員会 議事録(案)

資料 1-4：平成 28 年度意見交換会 議事録

4. 議題等

(1) 開会挨拶

堤下校長の開会の挨拶に続き、山下理事長から挨拶がなされた。

(2) 議事内容説明

堤下校長から本日の会議内容について説明があった。

(3) 前回議事録(案)の確認

① 平成 28 年度第 1 回委員会 議事録(案)の確認(資料 1-3)

中安委員から前回開催された平成 28 年度第 1 回委員会(平成 28 年 10 月 19 日実施)の議事録を説明・確認し、その内容について全会一致で承認された。

② 保護者・卒業生対象意見交換会 議事録の説明(資料 1-4)

見邨委員から参考のために、保護者・卒業生対象意見交換会(平成 28 年 12 月 10 日実施)の議事録の説明があり、堤下校長より今年度は卒業後 10 年程度経過した学生の意見であること、次年度は卒業後すぐの学生の意見を聴く予定であり、今後も意見聴取は続けていくことの説明があった。

(4) 議案

1) 各学科平成 28 年度課程修了報告

平成 28 年度の運営状況・活動報告を、建築学科（昼・夜）、建築デュアルシステム科（夜）、建築 CG デザイン学科、空間デザイン学科、専科 2 級建築士科、住環境リノベーション学科、土木工学科、建設エンジニア学科、ガーデンデザイン学科について、各科長・副科長より報告が行われた。主な内容は、以下の通りである。

① 建築学科（昼・夜）、建築デュアルシステム科（夜）…増田委員

建築学科・建築デュアルシステム科は、平成 27 年度から新カリキュラムでスタートし、今年度で 1 サイクルとなる。職業実践教育として、座学の充実に加えて、演習科目や企業連携としてインターンシップ・オープンデスクの強化を図っており、インターンシップでは夏期 146 名が参加し、春期には 138 名が参加する予定となっている。また、毎年実施している鉄筋組合・型枠組合・圧接協同組合の現場実習に加え、大阪ガスのハグミュージアムの施設見学を実施した。

② 建築 CG デザイン学科、空間デザイン学科、専科 2 級建築士科…見邨委員

・建築 CG デザイン学科では、思いを形にするプロセスをマスターし、デジタルで表現する手法として AutoCAD・Shade を活用していたが、次年度は AutoCAD との連携を図るため Shade を 3ds Max・Revit へ変更し、さらに Photoshop・illustrator の基本操作マスターを実施する。また、アナログで表現する手法として、手描き図面・手描きパース・木工制作などを実施した。

・空間デザイン学科では、考える力、かたちにする力、伝える力を柱として、空間構成・使用材料の知識を育み、手描きパースや模型制作を重視し、課題毎にプレゼンテーションの時間を作り、伝える力を育成した。

・専科 2 級建築士科では、専科進学選考入試の内容の一部を見直し、過去問からの出題や小論文にて決意や建築士倫理について問う内容を盛り込んだ。さらに、次年度より本校独自で一級建築士合格者の追跡を実施する予定である。

③ 住環境リノベーション学科…中島委員

住環境リノベーション学科は現場管理者を養成する学科で、実習・実験・測量等を中心に現場管理者の実務・役所申請書類や施工図の書き方等を実施した。人材育成では、あいさつ、礼儀、作業服・安全靴・安全帽の正しい着用、安全のための指さし点呼等を、専門教育では、現場で必要と思われる技能講習や特別教育を 2 年間で 9 資格程度取得し、2 級建築施工管理技術検定合格 100% 達成を目指して実施している。また、企業連携として年に 3 回以上の現場見学を実施しており、現場管理者の実際の業務内容や新しい工法などの見聞によって、授業の内容をより一層深めるものとしている。

④ 土木工学科、建設エンジニア学科…野瀬委員

土木工学科、建設エンジニア学科では、2名の新任教員と、施工実験実習とCAD製図に2名の補助教員を迎えて実施した。

授業中心の座学に加え、1年生は9月に富士教育訓練センターで5泊6日の研修を実施している。内容は、橋脚の足場、鉄筋、型枠の総合実習を実施している。また西尾レントオール 西日本テクノヤードにおいて情報化施工の体験や大林道路 大正アスファルト混合所見学勉強会を実施し、産学連携の授業を実施した。

就職は、土木工学科は全員内定し、建設エンジニア学科では1名現在も活動中である。

⑤ ガーデンデザイン学科…中安委員

ガーデンデザイン学科では、1年生は新カリキュラム、2年生は旧カリキュラムで授業を実施した。

・地域との共生として、小学校・幼稚園・西淀川区役所などとの交流を通じて、大和田北公園の美化活動をはじめ各種イベント参加やボランティア活動を実施した。

・在校生、卒業生、教員の交流の場として、「海がめプロジェクト」を開催し、卒業生在籍企業の会社合同説明会や卒業生による造園技能士受験対策・実習・演習授業等を行った。

・3階テラスの休憩施設の設置を行うなど実習重視で実施しているが、今後は学校行事との調整や座学の充実も図っていきたい。

2) その他

・建築関係と土木・造園関係に分かれてグループ討議

【 建築関係 】 司会：見邨佳朗、記録：増田和浩

山下裕貴、中島良明、山本剛、小池裕也、奥和田健、山崎孝一 以上8名

見邨委員より「業界の現状と見通し」、「専門学校に業界が要求するものは」、「資格取得について」などに関する意見を伺いたいとの話があり次のような意見が出された。

① 最近の業界の現状と見通し

・建築士事務所協会内では、修成のレベルが上がっているとの意見も出ており、和歌山で行われる日本建築士事務所協会連合会の全国大会に修成が参加協力することに対して応援している。

・ガーデンデザイン学科の説明では、地域交流の話があった。地域に愛される学校は成長すると思っている。

・建築の仕事は多くあるが、仕事の時間が長く、数字に追われていることが多い。

・業界は時間との戦いやコミュニケーションが不得意の者は申請書類の作成ばかりとなる内容を打開し、業界のよさ・仕事の楽しさを若い人に知らせるように考えるべきである。

る。

- ・ 業界は、人手不足が現状である。
- ・ 積算の仕事をする人が少ない。積算士を育成してはどうか。
- ・ 最初から積算を目指している学生は少ないと思われが、創意工夫してはどうか。
- ・ 設計事務所では住宅だけではなく工場やカフェ、特殊な建築の依頼がある。オーダーが来たときに空間体験をしていると有利である。さまざまなジャンルの建築・空間を見学・体験させるといいのではないか。
- ・ 建築へのニーズは基本的には変わらないが、設備が良いものが出ており進化している。

② 専門学校に業界が要求すること

- ・ 大学は2年生までは一般教育科目が多い。3年生では建築を勉強して、4年生は単位が取れると学校に行かなくなる。専門学校は建築の勉強を2年間しており、大学よりも勉強時間が長いと思う。
- ・ 建築一般の知識を十分に教えてほしい。
- ・ 大学生は知識があるかもしれないが、実際の仕事では打ち合わせなどコミュニケーション能力が大切であり、専門学校生と差はほとんどない。
- ・ 専門学校は2年なので基本中の基本を教育することが大切である。
- ・ 基本の図面をひたすら書くなど、基礎の積み重ねが必要である。
- ・ 二級建築士の合格率を上げることが専門学校の意義だと思う。

③ 働きながらどのように資格のチャレンジをしているか

- ・ 会社では、学科は20時ごろから社内で勉強をさせ、製図は資格の学校へ行かせている。
- ・ 土日に会社が休みなので、休みを利用して勉強していた。
- ・ 一級建築士は資格の学校へ通った方がよい。
- ・ 仕事を始めて1~2年は覚えることが多いので、勉強できないと思う。専科で二級建築士をとってから就職をする方法がいいと思う。
- ・ 専科は、試験終了後、実践を上乘せし、スキルアップを目指すといいと思う。
- ・ 積算士補は学生でしか受験できない。取得後は積算士の1次試験免除となり有利となる。

【 土木・造園関係 】 司会：中安哲男、記録：野瀬孝男

堤下隆司、小松原学、小島章、岩野久香、大上哲男

以上7名

中安委員より、本校は古事記の一節『修理固成』から建学の精神「国土建設に奉仕する精神」が創案され「国土建設に貢献する建設技術者を養成する」という想いに基づき、学生一人ひとりと向き合った教育を基本方針として、「人材育成」と「専門教育」の二つの面からアプローチする教育を行うという理念があり、教育の見える化・教育の質保障を実施

し、時代とともにカリキュラムを常に見直し検討するため、これに対する意見を伺いたいとの話があり次のような意見が出された。

① 小松原委員

- ・教育ビジョンは素晴らしい。
- ・2018年からの少子化や2019年からの担い手確保、専門職業大学の創設、i-Constructionの導入等、先生方の意識改革が重要ではないか。
- ・まずはオンリーワンから始まり独自性をもってNo.1になって頂きたい。

② 小島委員

- ・建設系の専門学校卒業生の採用が少なく大学生と比較することが出来ないが今後比較していきたい。
- ・1 Day インターンシップで2日間10数名の大学3年生を10haの土工現場に連れて行くとスケールが大きいと驚いていた。また、小学生に推進工法の説明をし、現場を見てもらうなどの活動を行っている。やはり現場を見学することも大切だと思う。

③ 岩野委員

- ・実習が多いことが大学生との差で、大学は研究機関であり、専門学校は実践教育の場であると思う。
- ・非常勤講師として法規の授業を実施したが、実務との関連を交えて実務主体で授業をすると学生は聞いてくれた。
- ・2年間しかないので座学と実習のバランスが大切だと感じる。

④ 大上委員

- ・土木の学生さんも樹木に関する知識を持ってもらいたい。
- ・公共的な話をする、造園工事が少ないので土木工事として実施するが、樹木を知っている職員が少なく、施工業者の方が知識をもっており、こちらで工事監理が難しい事がある。
- ・街路樹のある歩道を整備するにあたって簡単に木の根を切って整備することもあり、樹木の知識が必要ではないかと感じることもある。

⑤ その他

- ・建設には何が大切か、建設倫理が必要である。
- ・建築、土木、造園は単独で存在するのではなく、その関連を知ることが大切である。
- ・人間工学に基づいた感性が必要であり、自然を相手に仕事をしており、その保存や維持が出来る知識や考えが必要である。
- ・学校卒業後は企業が育てる。

・景気によって解雇されないようにする。

(5) 次回開催日時等の決定

日 時：平成 29 年 10 月中旬

場 所：修成建設専門学校 146 教室

内 容：1) 平成 29 年度カリキュラム運営状況

2) その他

以上

(記録・文責：野瀬孝男、増田和浩)